



# たけのこ通信



2019年 特別号

この度は、私の「政治活動25周年を祝し、更なる飛躍を期待する会」に際しまして、皆様から尊いご高配を賜り、誠にありがとうございますございました。会場にお越しくくださった皆様、またご多用の中パネラーをお引き受けいただきました野田聖子先生、小淵優子先生、三原じゅん子先生にも唯々感謝の気持ちしかありません。本当にありがとうございますございました。

思い返せば松下政経塾在塾中、地元から県議会議員選挙出馬の打診を最初にいただいたのは25歳のときでした。自分でも「いくら何でも早過ぎはしないか」と不安を抱いていたのですから、26歳の候補者を初めて目にした有権者の皆様は「こんな若造にまかせて大丈夫か」とお思いになったことでしょう。そんな若輩を県政壇上へと押し上げていただき、右も左もわからぬ私を県議会の先輩・同志の先生方は温かく迎えてくださいました。

県議会まだ一期目の途中、党本部からの「複数区は二人擁立」の命を受けて、30歳になったばかりで参議院選挙に挑戦し、あえなく敗北。しかしながら、地元でもまだまだ知名度が低く、まして全県では知名度ゼロと言ってもいい私に20万票を超える得票をいただいたのにも拘わらず敗れた悔しきは、今でも昨日のここのように思い出されます。政治家は当選できなければ、選挙でお世話になった人にも地域にも何の恩返しもできない。このことを痛感した私は、翌年の県議選から文字通り「一から出直し」でした。

いま思えばこのときの落選、そしてその後の県議会議員としての10有余年は、私にとってとても貴重な時間でした。岐阜県内の市町村それぞれの悩み、課題、努力、そして将来への希望を見て聞いた経験は、私自身の揺るぎない政治信念「地方こそ原点」を形成しています。

わが国と地方は、いま重要な岐路を迎えています。人口減少、少子高齢化、毎年のように襲ってくる自然災害、複雑化する外交、地球規模の環境問題。難しいこれらの課題にも必ず答えを見つけていくのが政治の責任です。9年前の選挙で参議院議員に初当選以来、常に心は岐阜県とともにあり、地方と国の将来のために微力ながら粉骨砕身努力させていただいています。

25年の政治生活の中で7度の選挙を経験し、選挙というものが本当に多くの皆様のおかげで戦えることを身体で知っています。応援いただく皆様は、自分の利益のためでなく地域のため日本のために、渡辺たけゆきに力を与えていただいています。

だからこそ、皆様方の愛する郷土への想い、国への想いを少しでも形にできるよう、これからも誠心誠意努めてまいりますので、変わらぬご指導賜りますことを心よりお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございます。



参議院議員

渡辺 猛之



1995. 岐阜県議会初めての選挙戦



県議会議員初当選



県議会初登壇



県議会視察



2010. 参議院選挙



いざ出陣!



2100.7参議院初当選



初登院



2017. 本会議代表質問



2013. 励ます会



雪の街頭演説



2015. 議院運営委員会理事として



2014. 予算委員会にて



2016. 二期目選挙戦



二期目当選



2016. 農林水産委員長就任



2017. 参議院自民党副幹事長



2018. IPU海外視察

